

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がその人らしく生活ができるように、現在職員全体で意見を出し合い、事業所独自の理念を検討している。		今後、理念ができれば、それに基づき、今後も利用者がその人らしく生活出来るように支援していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は勤務に付く前に一人一人今日の目標を決めて、1日の介護にあたっている。		今後も勤務にはいる前に理念を再度確認し利用者様が安心して暮らせる様に支援する。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念をホームの玄関等の良く見える所に掲示し、家族や地域の人々にも把握しやすいようにと検討している。		家族や理念を地域の人達にの理解してもらえるように取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	建物は小高い丘の上であり、近所の人歩いで来れる環境ではない。近所の家に個別に挨拶に行き交流を図っている。夏祭りなどの行事の時は近隣の住民も来所され、交流を図っている		祭りなどの祭事や四季折々の行事を増やし、また、現在行っている月行事にも気軽に近隣住民の方が参加して頂けるように、行事に工夫をしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の入会や、夏祭り、敬老会などの行事に参加し交流を図っている。		近隣保育所や幼稚園等との交流を含めた地域の行事に今後も積極的に参加させてもらい、交流を図ってきたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の家を訪問し事業の内容の説明や介護相談に取り組んでいる。		今後は気軽に介護相談や認知症の相談に来れる施設にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価や調査報告を参考にし改善には取り組んでいるも、立地条件や建物のハード面など改善できないところがある。		改善出来るところは積極的に行いたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的に運営推進会議を開催し、利用者、家族、民生委員、地域包括センター職員の意見を参考にサービスの質の向上に努めている。		運営推進会議での討議内容は、議事録を通じて、各職員に提示するとともに、月1度の職員ミーティングにおいても、サービス向上に努めていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は取り組んでいないも、若松区役所主催の地域ケア連絡会に定期的に参加して質の向上に取り組んでいる。		今後、運営推進会議等を通じて、市の担当者に相談出来る事はしたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用している入居者が1名いる。施設ではマニュアルを用意し、必要な人には説明できるようにしている。		今後、権利擁護や成年後見人制度が必要な人には、手続きや関連機関との連絡を迅速に行い、利用してもらいたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やミーティングの場で虐待について話し合っている。虐待防止法や身体拘束防止のマニュアルを用意し職員全員が理解出来る様にしている。		今後も虐待防止について、知識や理解を深めながら、虐待がないように支援していきたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約時、契約書や重要事項説明書を元に、十分な説明を行い、相互理解・納得に努めている。		今後も契約内容を十分説明し納得して入居してもらえる様にします。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの意見は随時取り入れている。 外出レクや趣味活動など取り入れるようにしている。		今後も利用者様の意見を第一に取り入れ援助に反映します。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料金請求書と一緒に写真や手紙、行事等を記載している新聞等を添え家族に状況を提供している。面会時には積極的に話しかけ意見交換している。		家族には利用者様の状況を積極的に知らせ、協力を仰ぎたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の方も参加してもらい意見を述べてもらっている。 それらの意見も参考に援助にあたっている。		家族の意見も参考に援助し、家族にも満足していただける施設にしていきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回各ユニット全員参加のミーティングを開き、各職員の意見や提案を聞いている。また意見を言いやすい人間関係に努め、随時聞き入れている。		職員の良い意見はもちろん、様々な意見に対しても、話し合い相互理解に努め、職員1人1人が働きやすい環境を作っていきたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	努めている。外出レクや行事の時は、出勤者の数を増やし事故の無いよう支援できる様にしている。		今後も今の状況を継続出来るよう取り組んでいきたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配慮している。 職員のユニット間の異動は、入居者の混乱等招きやすいので、極力行わないようにしている。		今後も配慮する。
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されているようにしている	職員の採用に関して、性別や年齢を理由に採用対象外にはしていない。現在働いている職員に対しては職員の意見を聞き入れ良い意見は反映されるようには配慮している。		職員一人一人の人権の尊重は今後も行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は職務に付く前に必ず理念を見ては自分に言い聞かせ、利用者の人権を尊重している。人権に対するマニュアルを各ユニットに配布し理解するようにしている。またミーティングの場でもみんなで考えている。		今後も人権について考えていきたい。
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	北九州市社会福祉研修所主催の認知症介護実践者研修にはその都度対象者は受講している。他にも参加出来る研修には参加している。内部の研修では月に一回の全員参加のミーティングの時に話し合い職員の質の向上を目指している。		今後も職員の質の向上、介護技術の向上を目指したい。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス事業者連絡会に参加し他事業所との交流を行っている。また外交担当の職員が他事業所を訪問し交流を深めている。		今後も他事業とも交流を深め、部屋の空き状況などの情報のやりとりなども行いたい。合同研修などを行いサービスの質の向上を図りたい。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室が離れた場所にあり休憩の時はゆっくり休めるようにしている。職員同士でプライベートで食事等に行ったり、ストレスの軽減を図っている。		今後も仕事だけではなく、仕事が終わった後や休日にゆっくり休める様にストレスを溜めずに仕事につけるようにする。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努力や実績のある職員に対しては昇給があり、向上心をもてるようにしている。		今後、金銭面に限らず、各自が、いろいろなアイデアを提案したり、意見交換をしたり、向上心をもって仕事ができる職場にしたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居後はコミュニケーションをしっかりと、本人の状態やニーズを把握出来る様行っている。要望や相談事などは一対一で聞き、可能な限り、じっくりと向き合える時間をとっている。		ゆっくり時間をかけて聞いていきたい。利用者様からの、要望や相談事があれば職員間でも話し合い対応出来る部分は行いたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族ともしっかり話をし気持ちを受け止め、利用者様が安心・快適に暮らして頂けるように、職員間でも情報を共有し、話し合いを行っている。		家族ともしっかりコミュニケーションをとり信頼関係を築いていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人から入居の希望があった時は、担当のケアマネジャーにも同席してもらい、しっかり話し合っている。		今後も、入居希望があった場合は、利用者や家族、担当ケアマネジャー等の関連事業者から可能な限り細部まで情報を入手し、サービスの見極めを重要視し、対応していきたい。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に、可能な方はショートステイやデイサービスの利用からはじめてもらい、すずらの家の環境に馴染んでから入居するように工夫している。		今後も継続していきい、担当ケアマネとの相談、本人、家族の希望が優先される為、入居前に全員同じような対応は出来ない。出来れば、全員同じように、デイサービス、ショートステイのサービスを始め、少しずつ環境、職員との関係に馴れて、入居していただきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様の気持ちを察し、対等の立場になって、ご利用者様の個性を失わないように努めている。レクや清掃など出来る活動と一緒に、コミュニケーションをしっかりと、良い人間関係が保てるよう努めている。		今後もコミュニケーションをしっかりと利用者様から信頼される人間関係を築きたい。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に現在の状況をしっかり説明し家族の意見も聞き、どのように援助したら本人に一番良いか一緒に考え、本人を支えている。		本人の生活状況、心身状態等をしっかり把握し家族に説明出来る様にしておく。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族面会時に利用者様とご家族の関係が良い状態になる様、スタッフが間に入り話しをしている。		ご本人とご家族だけの話し合いになると悪化してしまうことがあれば、職員が間に入り仲裁役として対応し、より良い関係が保てるよう支援できるようにしたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事などに参加し入居前の友達との交流なども図っている。 会話の中でも馴染みの人や場所などを話題にし話している。		今行っている支援を続けていきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中はリビングで過ごしてもらい、交流が図れるように支援している。		今行っている支援を続けていき、今後インターネットや情報誌等を活用し、共通な趣味や娯楽等を見つけていきたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方の家族で、音楽ボランティアの経験があり、慰問をお願いできる関係である。		今後も、ボランティア等を通じて、継続的な関わりを持ち、交流の輪を広げていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者様の一人一人の希望や意向には、状態の把握に努め、職員みんなで話し合い努めている。</p>	<p>利用者一人一人今までの生活の違いがあるので、個別ケアを充実させていく等ご本人の希望にどれだけ近づけて対応できるかが課題。</p>
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>アセスメントをしっかりと行い状況、状態の把握に努めている。入居後も会話の中で以前の生活状況を把握出来る様になっている。</p>	<p>ご本人から今までの生活状況が聞き取れない場合は、家族の方に聞き、把握出来る様にしたい。家族が遠方におり、直接話が出来ない方もいるので、電話でもなかなか連絡が取れないケースある。今後の課題である。</p>
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>状態観察をしっかりと行い、記録している。状態変化時は申し送り情報交換を確実に実行し観察している。</p>	<p>状態変化にすぐに気付けるように、日々の観察をしっかりと行っておく。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>各職員で担当する利用者を決め、利用者全体を把握しながらも、自分の担当利用者の状態等を観察し、ミーティングの場で情報交換し、介護計画を作成している。また、変化などが生じた場合、すぐに家族、関係者と話し合いを行っている。</p>	<p>利用者本位の介護計画という事を頭におき、ご利用者様がより良く生活出来る環境を提供していきたい。</p>
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月に一度モニタリングを行いプランの検討を行っている。</p>	<p>ご利用者様の生活に対する意向が確認出来ず、自分の気持ちを伝えきれないケースが多い。しかし、その現状を家族や関係者にも伝え、意見や意向を聞きながら、再度プランの見直しをしていく。</p>
40	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録や必要ケアチェック項目を個別にしっかりと行っている。ミーティングで情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>少しの変化時の時、プランの変更や作り直しを行っていないケースがある。必要時はプランの作り直しをしていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	3ユニットあるので、他ユニットとの交流や四季折々の行事では3ユニットの合同企画をし、盛大に行っている。		広大な敷地や自然環境を活かしながら、家庭菜園や屋外での食事など、柔軟な対応をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティア、消防、教育機関との協力体制は出来ている。		今後も地域の協力を求め、お互いより良い活動が出来る様にしていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同じ建物の中のデイサービスとは協力しあい、合同での企画やサービスを行っている。		今後も継続していきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員には運営推進会議のメンバーになってもらい会議の時に協力、意見を述べてもらっている。		今後も協力を仰いでいきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による定期的な往診や受診(内科・歯科)は行っており適切な医療は受けられている。		今後も継続していく。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症状が強い利用者は専門医を受診し適切な治療が受けられるよう支援している。		今後も継続していく。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制加算にて常勤の看護職員を雇用しており、日々のバイタルや利用者の状態の把握はもちろん、急変等があった場合も、迅速に対応ができる体制である。		今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時は頻回に面会に行き、病院職員とも情報交換をしっかりと行い、早期退院に向けて努めている。退院時は看護サマリー、退院証明書もらい、留意点を確認している。		今後も継続していく。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期には家族、主治医と共に話し合い方針を決めている。		今後も継続していく。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族、主治医、看護師等と話し合い、緊急時の対応なども話し合っている。		緊急入院などが必要になった場合の入院先が家族と打ち合わせが出来ていない利用者が数名いる。今は必要ない利用者も今後の事を考え、緊急病院搬送先など家族と話し合っておきたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅へ帰られる利用者様には、まず外泊から行ってもらい、家族不安、利用者様の精神的負担を軽減出来る様になっている。		今後も継続していく。
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様のプライバシーや個人情報の保護には十分注意している。自尊心を傷つけないよう声かけの仕方などに注意している。		今後も継続していく。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様が分かりやすいように声かけをし、自己決定出来る様に支援している。		今後も継続していく。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月の行事や往診などは時間が決まっており、その日は一人一人のペースに合わせる事は出来ないが、予定のない日は希望に添えるように援助している。		食事時間、入浴時間、掃除、レク、体操の時間は1日の予定に入っており変更する事は難しい。利用者様の希望だけを聞くのではなく、ある程度の規則正しい生活を支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容と家族の協力を得て、地域の理美容室を利用している。最近では、事業者協力のもと、送迎つきで美容を活用している方もいる。		今後も継続していく。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力的に出来る方には食事の準備、片づけを手伝ってもらっているが、負担になり混乱する方もいるので、その日の気分や体調も配慮しながら、できる範囲で行っている。		一人一人状態や能力が違うので、全員での活動は無理な所がある。可能な方は今後も継続して生活リハビリを行ってほしい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは、決まった時間に同じものが提供されるが、一人一人の状態に合わせ、形状や甘さは変えて、好みに合わせている。家族が面会時に持って来る食べ物も保管が難しく、一人一人のニーズに対応出来ていない部分もある。		おやつは、保管場所の問題、利用者本人に渡しておくすぐに全部食べてしまう為、渡すことは出来ない。今後、保管場所、渡す時間などを検討し出来るだけ本人の望むものを提供したい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、定期的なトイレ誘導、適度な運動を心がけている。尿意、便意の訴えがない方でも、オムツにせずに紙パンツ、パットを使用しトイレでの排泄、パット交換の支援を行っている。		今後も継続していきたい。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の1日の援助の流れがあり、通常は、夕方3時～5時くらいで入浴を行っている。現在は他の時間での入浴希望者はいない。		利用者様の希望があれば午前中や夕食後の入浴等希望に添えるよう職員の勤務の流れを検討していく。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中帯は活動の支援などを行い、夜しっかり眠れる様に援助している。日中、通常はベットや布団で休む方はいない。体調に応じて、30分～1時間位横になる方もいる。		1人1人のペースに合わせ、生活してもらおうと、食事の時間や就床時間がばらばらになり、援助が難しくなる。ある程度の時間を決めてからの援助で規則正しい生活習慣を行いたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	意欲的に活動して頂ける様に散歩に出たり、レク・創作活動への参加、行事への参加、鉢植の世話、を行ってもらい、少しでも喜びや楽しみを得られるように努めている。		一人一人に合った気晴らし方や能力を把握し提供していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施していない。 買い物や外出時はすべて施設で立替、家族に請求している。 施設でもお金は預かっていない。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の確保や車の都合により、その日の気分での外出は行ってない。 ある程度の日数をとり準備して個別の外出は行っている。		職員の確保や車の確保が出来、いつでも希望にそって外出や買い物などの支援をしていきたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に2、3回は全員で外出する企画をたて、出かけている。行事が平日が多いという事もあり、利用者様の家族は外出レクには参加が少ない。		今まで家族の方は外出レクには参加された事がないので、今後は家族の方も参加していただける企画を立て、家族の方とも交流を深めていきたい。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月一度、手紙を書いていただいている。 電話も希望があれば可能だが、電話をかけての希望がほとんどない。		月に一度の手紙は今後も続けていきたい。 電話での会話も今後支援していきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間は基本的には9:00～20:00であり、その間の時間はいつでも面会にきてもらえる様にしている。希望があれば利用者様の居室に宿泊することも可能である。		今後も継続していく。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度管理者による身体拘束廃止会議を行い、1ヶ月に一度のミーティングの場でも身体拘束をしなくて良い援助法を検討している。		今後も身体拘束を行わない援助を続けていく。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室の窓、ユニットの出入り口の鍵は開放している。		今後も継続していく。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中誰がどこにいるのかなどを理解し、他ユニットとも協力し見守り、居る場所の把握、所在確認を徹底している。		今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物にはわかりやすく注意書きをし危険の防止に取り組んでいる。危険性が高い物は戸棚の中などに入れている。利用者の状態にあわせ、中には裁縫道具を持っている方もいる。		今後も利用者様の一人一人の能力を考え、危険防止をはかっていく。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各種事故防止マニュアルを作成し、一人一人の状態に応じて対応している。		応急処置の方法や避難訓練等の実施等を行い、より実践に近い形での講習や外部の研修への機会を増やしていきたい。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあり、対処法は理解していると思う。また、救急隊に依頼し、心肺蘇生法等の応急処置講習を行い、実際の対応や訓練も少しずつ行っている。		定期的に訓練や勉強会の機会を増やし、職員全員が素早い対応が出来るようにしたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルはあり、職員全員ある程度の理解は出来ている。		定期的な災害訓練を実施、災害時に慌てずに対応できるようにしておく。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時に利用者様の状態を家族に詳しく説明し、変化時の対応を話し合っている。		今後も継続していきたい。
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや入浴時等の全身観察を行っている。異変があった場合はすぐに看護師、また必要があれば主治医に相談し対策をとっている。		今後も継続していきたい。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録ファイルの中に薬の効能書きを入れており、薬の効果、副作用などを把握している。		今後も継続していきたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事、水分摂取、運動などを注意し、定期的にラジオ体操や散歩を行っている。主治医の指示により、下剤を服用している人もいる。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、全員ではないがほとんどの利用者が口腔ケアを行っている。就寝前は全員の口腔ケアを行っている。また、個々人の力量に応じて、自立を促したり、必要に応じて介助を行っている。		歯科医師からの指導や助言も随時受け、毎食後、口腔ケアが行えるように支援していきたい。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により、栄養バランス、カロリー計算を行っている。水分摂取量も記録し1日1500ミリリットル程度は摂取して頂けるようにしている。		今後も継続していきたい。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを参照に手洗いうがいは徹底している。		インフルエンザの予防接種は毎年全入居者を対象に実施している。今年以降も継続して実施していく。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食べ物の保存方法、賞味期限を確認し食品管理に勤めている。食器や包丁、まな板は洗剤や乾燥機で衛生的に使用するようにしている。		今後も継続していく。
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に鍵をかける事はなく、誰でも尋ねてくることは出来る。建物周辺は坂道になっており、歩いて尋ねてくることは難しい。家族は車で来られ、よく面会に来てくれる。		坂道には花や植物を植えるなど、工夫できる所は実施したい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個人で愛用していた物を飾ったり、季節に応じた外出レクで撮った写真コーナー等様々な工夫を凝らし、利用者の意見も聞きながら対応している。		建物のつくりが施設的で生活感が出しにくいので工夫していきたい。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人の場所が決まっており、利用者様の自分の場所と思いい、だいたいその場所に座っている。		今後も居場所作りを工夫し、楽しく落ち着けて過ごせる環境にしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持ち込む等、本人や家族と相談しながら居室作りを行っている。		気分転換のために、たまには家具の配置変え等を行っていききたい。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンでのこまめな温度調節、定期的な換気を行っている。		今後も継続していく。匂いがこもる事もあるので注意していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は履物ははかないようにし、また履いても素材は柔らかく動きやすいものにし、移動時に少しでも転倒の危険性を軽減できるようにしている。必要な場所には手すりを設置している。		今後も継続していく。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	残存機能の維持のため、出来ることはなるべく自分でやってもらっている。掃除や配膳の手伝いができる方は、手伝って頂き生活リハビリを支援している。混乱している時は職員も一緒にいい利用者様の精神的負担にならないように支援している。		今後も継続していく。
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで植物を育て、楽しめる環境にはしている。鍵はかけていないので、いつでも外に出て活動できるようにしている。		今後も継続していきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

広大な敷地や自然環境、広々とゆったりとした生活空間を活かし、四季折々の行事や各ユニットでの行事を盛大に行っている。